俳句に親しもう

□年□組□番　名前

◇　次の俳句について、問題に答えましょう。

① 名月をとってくれろと泣く子かな
（小林一茶）

② 雪の朝二の字二の字の下駄の跡
（田捨女）

③ 閑かさや岩にしみ入る蝉の声
（松尾芭蕉）

④ ゆさゆさと大枝ゆるる桜かな
（村上鬼城）

（一）リズムよく読めるように、二カ所に区切る線を書きこみましょう。

例　菜の花や月は東に日は西に

（二）それぞれの俳句の季語と季節を書きましょう。

	季語	季節
①		
②		
③		
④		

（三）それぞれの俳句がどんな様子を表しているかを考え、記号で書きましょう。

ア　大きな桜の木の枝が、たくさんの桜の花びらをつけて、風にゆれている。

イ　満月がとてもきれいなので、取ってほしいと小さなわが子が泣いている。

ウ　雪がふった朝、外へ出てみると「二」の形になったげたのあとがたくさんできていた。

エ　ひっそりとしずかな中で、せみの声だけが岩にしみこむように聞こえてきた。

①	
②	
③	
④	

俳句に親しもう（答え）

（一）リズムよく読めるように、二カ所に区切る線を書きこみましょう。

① 名月をとってくれろと泣く子かな　（小林一茶）
② 雪の朝二の字二の字の下駄の跡　（田　捨女）
③ 閑かさや岩にしみ入る蝉の声　（松尾芭蕉）
④ ゆさゆさと大枝ゆるる桜かな　（村上鬼城（きじょう））

（二）それぞれの俳句の季語と季節を書きましょう。

	季語	季節
①	名月	秋
②	雪	冬
③	せみ	夏
④	さくら	春

※　季語は、その季節を表す言葉で、俳句には必ず入ります。秋は月が美しく、今でも秋にはお月見が行われますね。

（三）それぞれの俳句がどんな様子を表しているかを考え、記号で書きましょう。

①	イ
②	ウ
③	エ
④	ア